

令和2年度ホタテガイ採苗情報（臨時号）

令和2年5月12日



発行：岩手県水産技術センター
協力機関：沿海振興局水産部・水産振興センター
関係漁業協同組合

ホタテガイラーバの来遊量は少ないと予測

【今年度のラーバ来遊予測】(図1)

岩手県海域の4月100m深水温は8.04°Cであり、予測される付着稚貝数(唐丹湾定点)は332個/袋と、近年で最も低い値となりました。

このことから、各地区においてラーバの来遊量が少ないことが予想されますので、十分な稚貝の確保に向け、次の対応をお願いします。

【稚貝確保に向けた対応】

- 採苗器の数を増やしましょう。
- 各浜におけるラーバ・付着稚貝調査結果と【ホタテガイ採苗情報】を参考に採苗器投入時期を判断しましょう。
- 付着盛期の判断が難しいことが予測されますので、分散投入を行いましょう。

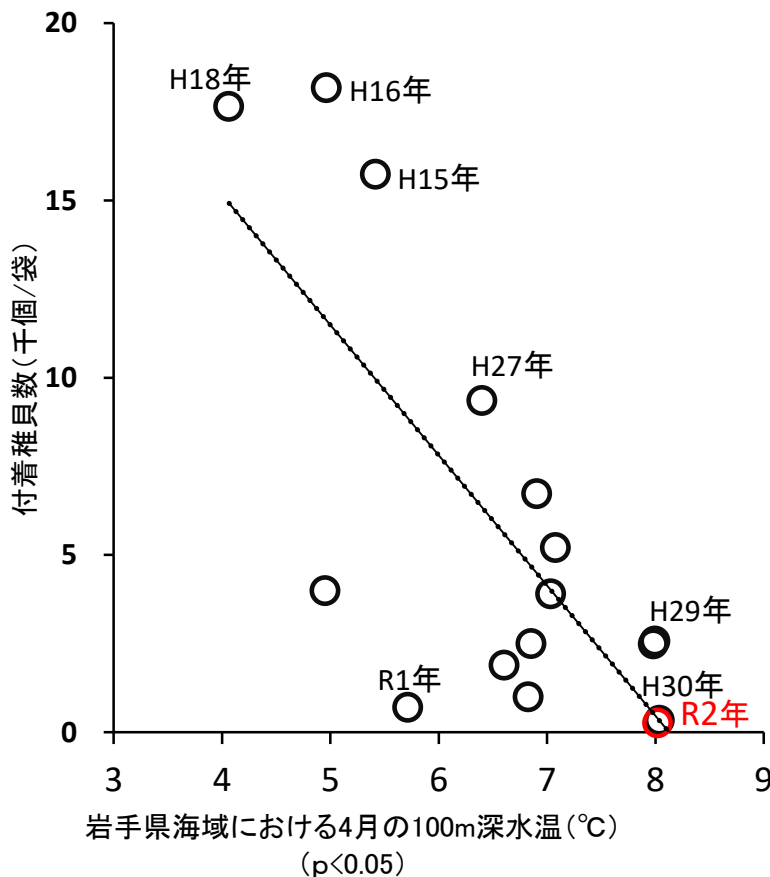


図 岩手県海域の4月の100m深水温と唐丹湾での付着稚貝数(調査期間は付着盛期を含む2ヶ月間)との関係。
※100m深水温は、水産研究・教育機構が運用している海況予測システム「FRA-ROMS」の出力値を使用した。

ホタテガイラーバ来遊予測技術

◎4月の100m深水温からその年のラーバの来遊動向を予測する手法を開発

本県に来遊するホタテガイラーバの主な起源は、遠くは陸奥湾及び噴火湾と推定されています。来遊量は、海流の影響を受けて大きく変化すると考えられるため、ラーバを模した仮想粒子群を追跡する数値実験を行いました。その結果、ラーバが本県沿岸に到達するには、親潮が本県に接近することが重要であることがわかりました。

そこで、本県海域の4月の100m深水温(親潮の指標)と唐丹湾の付着稚貝数を比較したところ、有意な負の相関関係が認められました。この関係を用いて、4月の100m深水温からその年のラーバの来遊動向を予測できるようになりました。